

- ファッション+a の 社会貢献 -

## ファッションで 児童・子供を交通事故から守る

### 2018 年度も高視認性安全服制作コラボレーションに取り組みます

ファッション業界の人材を育てる学校法人文化学園文化服装学院（学院長：相原幸子）と繊維製品等の第三者評価機関 一般財団法人ニッセンケン品質評価センター（理事長：駒田展大）は**2017年度**、交通事故から子どもたちを守る「子ども・児童用 高視認性安全服制作」コラボレーションに取り組みました（写真）。

一般的に販売・着用されている安全服は画一的なデザインが多いため、2017年度の市場調査や展示を通じ、子供たち・親御さんから「ダサい」「カッコわるい」「かわいくない」「着たくない」などの声が圧倒的に多いことが改めて判明しました。また公的基準である日本工業規格では、道路作業用の高視認性安全服規格JIS T 8127を定めていますが、あくまで大人用であり、**色合いやデザインの制限も多く、子ども・児童用として応用するには無理**があります。

そのような状況で、ファッション・繊維製品に関わる両法人がそれぞれの強みを活かし、外出歩行時の子ども・児童の交通事故予防に貢献できるよう、また車のドライバーから“よく見える”、しかも**“ファッション性に優れた”安全服作り**に取り組みました。

これは、子ども・児童を事故から守り被害者にしないと同時に、ドライバーを加害者にしないための取り組みでもあります。



同学院 文化祭(2017.11/2-4)では、26 グループが作品を展示。“プロ”では思いつかない大胆なデザインに、来場者からは「かわいい!」「子どもに着せたい」などの声がたくさん聞こえてきました



最終審査会(2017.11/29)でグランプリの栄冠に輝いた「レインセクト」チーム。レイン(rain)コートを昆虫(insect)の羽に見立て、再帰反射素材・蛍光素材を使用しました

引き続き **2018 年度も同様の取り組みを行います**。日程は下記の通りです。授業等すべてのカリキュラムを、あらゆるステークホルダーの皆様にご一般公開しておりますので、参加ご希望の皆様は、ニッセンケン・企画広報課までご一報ください。

#### ■文化服装学院×ニッセンケン コラボレーション カリキュラム (会場：文化服装学院)

2018年5月31日(木) 13:30~16:40	子ども用高視認性安全服の規格に関する授業
7月4日(水) 13:30~16:40	学生による企画プレゼンテーション
7月-10月	高視認性安全服制作(パターン作成、縫製・実物制作)
11月2日(金)~4日(日)	文化服装学院 文化祭で作品を展示
12月5日(水) 9:30~12:30	最終審査会。優秀作品を表彰(1~3点程度)

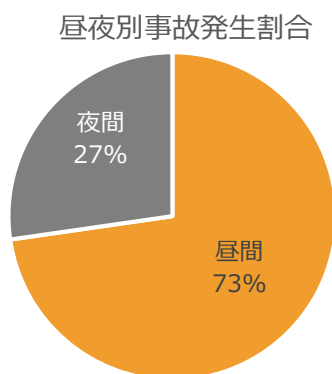
## － 交通事故防止を図る高視認性安全服 －

### 子ども・児童の交通事故は社会問題

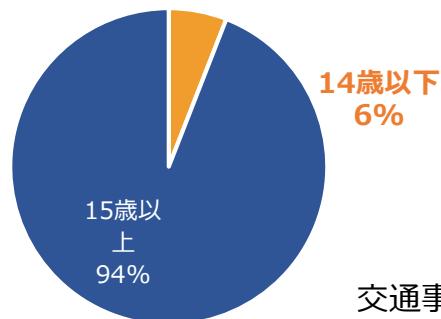
警察庁が発表した「平成 29 年における交通事故の発生状況」によると、交通事故発生件数は合計で約 47 万件となっており、死傷者は 58 万人にのぼります。

このうち、14 歳以下の子どもは約 6%を占めており、見過ごせない被害となっています。

交通事故件数	死者数	負傷者数（うち重傷者）
472,165	3,694	580,847 (36,895)



子どもが関わる事故の割合



交通事故統計（警察庁）

### 高視認性安全服とは？

高視認性安全服をご存じですか？  
簡単に言えば「遠くから見ても目立つ服、夜間でも明るく見える服」です。  
海外では反射材や蛍光素材を使った服を着用することで、子どもたちを夜間でも明るく目立たせ、車や自転車などによる交通事故の低減に大きく貢献しています。



### ヨーロッパの安全規格と、一步遅れる日本での取り組み

ヨーロッパの児童は通学や遠足などで外出する際に、安全規格である EN 1150 に適合した反射ベストを着用しています。日本では、大人用高視認性安全服の規格 JIS T 8127 が制定された翌年（2016 年）に児童向け高視認性安全服の規格 JATRAS 001 が制定され（一般財団法人日本交通安全教育普及協会）、未来ある子供たちの交通事故減少に向けて蛍光生地や反射材を使用していこうという動きが広がっています。

ニッセンケン品質評価センターでは、このような安全性の高い衣服を推薦し、製作・販売を応援しています。